

Ⅱ 望ましい教育環境に関する考え方

望ましい教育環境とは

子どもたちにとって学校は、確かな学力・たくましく生きるための体力を身に付けるとともに、自分とは違ういろいろな個性に出会い、多様な考えに触れ、豊かな集団性・社会性を育むことができる環境が望ましいと考えます。

望ましい学校規模とは

【小学校】

○1学年2学級の通常学級12学級を目安とします。「地域とのつながり」に重点をおき、1学年1学級20人以上の通常学級6学級以上の規模を基準とします。

【中学校】

○1学年2学級の通常学級6学級以上の規模を基準とします。

○なお、地理的条件、地域とのつながりから1学年2学級が実現できない場合は、1学級20人以上になることを基準とします。

学校施設整備の在り方

施設設備が老朽化している学校が多くあり、改修が遅れるほど校舎等の劣化は進み、児童生徒の学習の場、生活の場として安心・安全な環境は困難になります。また、より衛生的な最新の設備を要した学校給食調理場の確保も急務です。

財政負担の軽減を図りつつ、学校施設設備の改修を加速させるためにも、望ましい学校規模と関連させながら、学校再編に取り組んでいく必要があります。

学校統合の構想

○学年単学級の小規模校のうち、全ての学年で1学年20人以上を満たすことのできない学校については、隣接校の状況を加味したうえで統合を進めます。特に複式学級の発生が予想される学校については、早急に統合を進めます。

○現在、学年複数学級ある学校においても、将来の小規模化を見通したり、統合校として使用する校舎のキャパシティを考慮したり、学校施設の改修の在り方を踏まえたりしながら、適切な時期に、隣接校との学校統合を進めます。

○旧市町村を越えた学校統合や、地域に1小学校1中学校しかなく、隣接校が遠方の場合は、小中連携校としての統合も検討してまいります。